

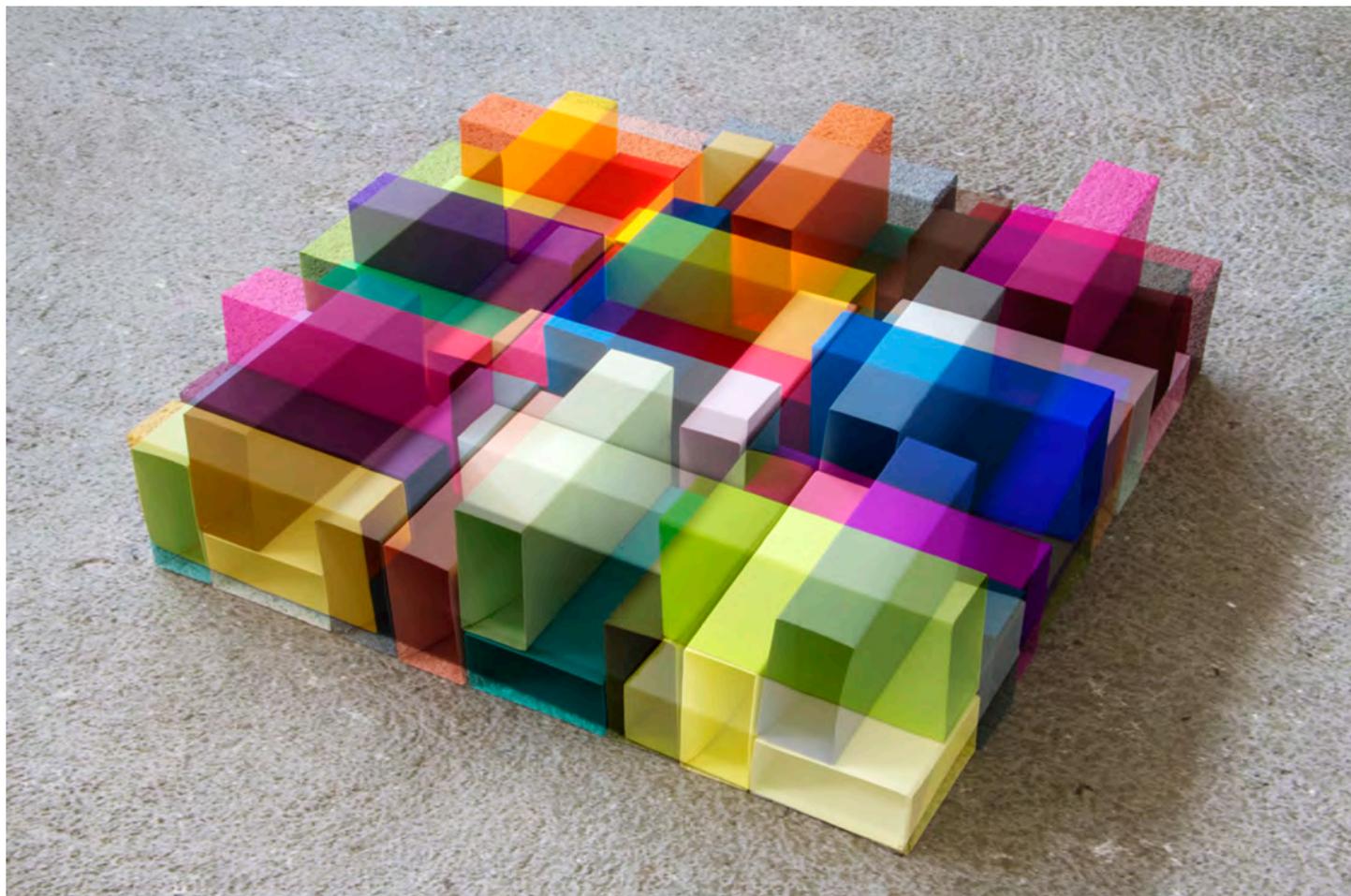


physical time

門田 訓和

kadota kunikazu

2016年6月16日 | 木 — 7月3日 | 日 11:00~19:00 ●月曜休廊・金曜日は20:00まで・最終日は18:00まで



【参考画像】《color paper》2011 c-print 110 x 70 cm

Gallery PARCでは、6月16日(木)から7月3日(日)まで、門田訓和による個展「physical time」を開催いたします。

門田訓和(かどた・くにかず/1985年・岐阜県生まれ)はこれまで、「表象としての彫刻」を探求してきました。たとえば2011年から今日まで断続的に手がけられてきたカラーペーパーを用いたシリーズは、台のうえに複数枚のカラーペーパーを準備し、重ね方や配置を変え、その様子を多重露光によって撮影することで作られるものです。色彩の重なりが美しいそのシリーズは、耽美的な写真作品として鑑賞できるほどの美的感覚を備えています。しかし門田の関心は、結果として生じる美しさにあるのではなく、その美しさを作り出している原理へと向いています。二次元のカラーペーパーによって、淡い立体感や奥行き感覚を作る。あるいは折ったり皺を付けたりすることでカラーペーパーの物質感を強調しつつ、同時に、それらを多重露光で撮影することで実体性を欠いた半透明のイメージへと変える。ここで門田はカラーペーパーを、二次元と三次元とを、あるいは物とイメージとを往還するものへと転換し提示しているのです。

彫刻という行為が、作家が物に介入することで形態の変容を及ぼし、物に新たな立体感や空間との関係性を与えるものとするのなら、門田のこのシリーズは、彫刻が立ち上がる瞬間を記録するものだと言えるでしょう。物質感や立体感をあらかじめそなえた粘土や石膏といった彫刻におなじみの素材ではなく、物質感が乏しく平面的なカラーペーパーを用い、また、どのようなものあっても物体として認識される現実空間ではなく、写真という表象空間の中で作品を作り上げておきながら、それでもなお、そこに立ち現れる立体感や空間性。先に「表象としての彫刻」という言葉を用いたのは、門田の作品がこうした感覚を与えるからに他なりません。

さて、本展において門田は、これまでの制作上の関心を引き継ぎつつ、新たな展開を見せます。出品作品はこれまでと同じく写真を用いて作られているものの、従来の作品を特徴付けていた色彩の美しさは後景へと退き、門田の行為の痕跡がより明示的に残されることとなります。また、従来の作品が写真作品として壁面に掛けられていたのに対し、本展の出品作品は、オーソドックスな彫刻作品と同じように床に置かれるものも含まれます。

行為の痕跡と物体感。我々が彫刻と呼ぶ作品から看取してきたこれらの感覚を、一般的な彫刻の形式からかけ離れた彫刻ならざるものとおして、鑑賞者へと差し向ける。そのような門田の出品作品は、「彫刻とは何か」「彫刻を見る経験とはどのような経験か」という問いを照射することになるでしょう。

physical time

門田 訓和

kadota kunikazu

2016年6月16日 | 木 — 7月3日 | 日 11:00~19:00 ●月曜休廊・金曜日は20:00まで・最終日は18:00まで

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、[info@galleryparc.com]迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名

physical time

出展作家

門田 訓和 kadota kunikazu

会期

2016年6月16日[木] — 7月3日[日]

11:00~19:00

*月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

料金

無料

内容

【写真】近年にはおもに写真を用いながら「表象としての彫刻」を探求してきた門田による個展。色彩豊かな過去作品に加え、本展では新作としてモノクロによる写真作品を中心に構成。壁掛け、床置きによる作品展示から、「彫刻とは何か」「彫刻を見る経験とはどのような経験か」という問いを投げかける。

会場

Gallery PARC [グランマーブル ギャラリー・パルク]

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町

弁慶石町48 三条ありもとビル

アクセス

阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分地

下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分。

三条通・御幸町通の交差点北西角 [グランマーブル] 店舗内2階

問い合わせ

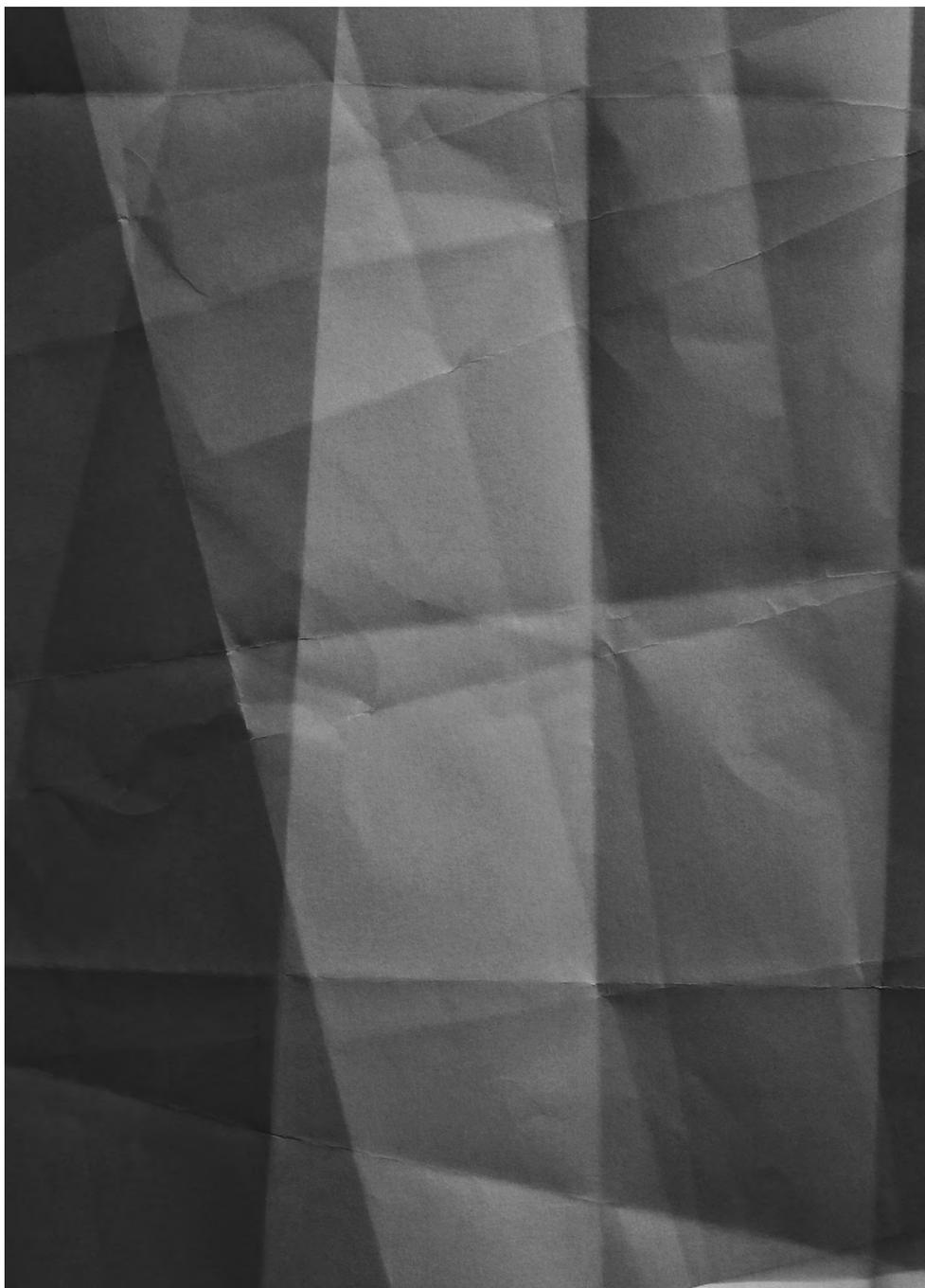
Gallery PARC (正木・村田・武本)

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町

弁慶石町48 三条ありもとビル [グランマーブル店舗内] 2F

【Tel&Fax】075-231-0706

【Mail】info@galleryparc.com



physical time

門田 訓和

kadota kunikazu

2016年6月16日 | 木 — 7月3日 | 日 11:00~19:00 ●月曜休廊・金曜日は20:00まで・最終日は18:00まで

statement

私の制作は、折り紙やロール紙を用いて行っています。それらは可塑的な素材であり、ある形や状態を保つのに一時的な存在で、一度そのバランスを崩すと元の形には戻りません。そこで私は、その一つ一つの瞬間の形や状態を写真によって記録します。そこには、紙という素材を用いることで生じる形とその中にある一連の行為が現れています。

うつし出され色や形の重なりは、単にそこにある色や形をくもらせるのではなく、むしろ様々な色幅や形態が、時間やプロセスを一つの結果として現します。このような制作行為が、一瞬の形や状態をかためる方法の一つだと考えています。

作品制作における手法と技術に焦点を当てることで、プロセスの回復と、それによって生じる、ものを見るという眼差しの不確かさを導き出すこと。そして、写真によって固められ、分節化された時間は、例えば、彫刻を輪切りにした時の感覚と似ているかもしれません。

門田 訓和 / Kunikazu Kadota

C.V

1985年、岐阜県生まれ

2009年、武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業

2012年、京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了

現在、東京都在住

< 展覧会 >

2010 「NOTE」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

2011 個展「OPEN STUDIO」Sitter Werk, ザンクト・ガレン, スイス

2012 個展「before that」ARTZONE, 京都

2015 「藝の中」Galerie Aube, 京都

- 「これからの、未来の途中」京都工芸繊維大学美術工芸資料館

- 「群馬青年ビエンナーレ2015」群馬県立近代美術館

- 個展「whereabouts」gFAL, 東京

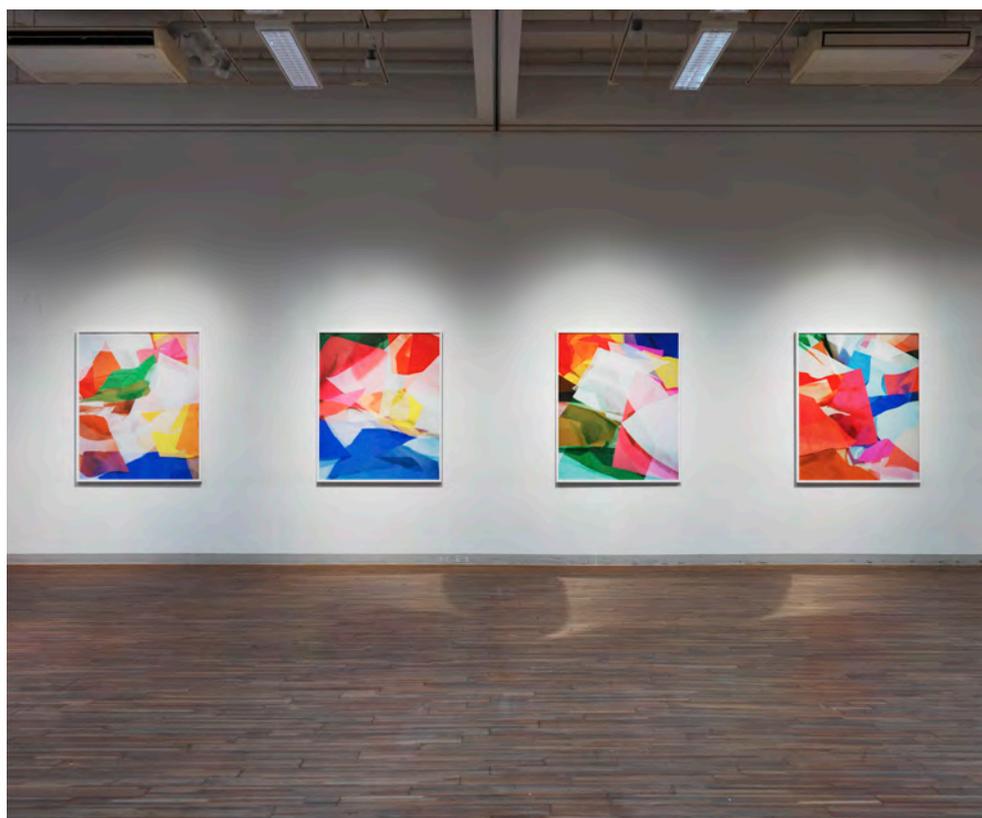
2016 「未来の途中の先を夢見る」ARTZONE, 京都

< レジデンスプログラム >

2011 Sitter Werk, ザンクト・ガレン, スイス



【参考画像】「color paper」2015 c-print 120 x 140 cm



【参考画像】「藝の中」展示風景 2015 Galerie Aube・京都